

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年2月19日

【評価実施概要】

事業所番号	1174300390
法人名	医療法人社団 清心会
事業所名	しゃくなげ荘
所在地	367-0047 埼玉県本庄市前原2-2-3 (電話) 0495-24-5215

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年2月7日

【情報提供票より】(平成20年1月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年2月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	10 人	常勤	3 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 5.9 人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り
	平屋建て

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,300 円	

(4) 利用者の概要(1月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	10 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名		
要介護3	7 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 77 歳	最低	54 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 福島会 上武病院、飯塚歯科医院、医療法人社団清心会清水クリニック
---------	---------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム理事長が心療内科のクリニックをホームの近くで開業していることもあり、認知症専門医として週一回当ホームに往診しているなど、医療のバックアップ体制がきちんと整備されているグループホームである。センター方式を利用して、アセスメントをしており、個人台帳・プラン実施表・服薬確認・水分量等についてきちんと確認し、利用者の状態について把握している。職員の業務分担表も詳細なものを作成しており、職員一人ひとりが働きやすいよう工夫している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回外部評価では要改善点がなかったため、該当なし。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者が各職員に自己評価についてのヒアリングをし、その結果をふまえて自己評価票を作成している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議のメンバーには、自治会長や衛生委員(元教員)等、地域の方が入り、会議で話し合われたことはホームの運営に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 面会時等、日頃から家族に日常生活や現在の健康状態を報告し家族とのコミュニケーションをとるようにしており、不安・苦情等話しやすい雰囲気を作っている。また、投書箱も設置している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 「地域福祉に貢献する」という理念に基づき、日常的に地域との交流を図っており、何かあると地域の方がホームに駆けつけてくれる関係を築いている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域福祉に貢献する」という事業所独自の理念を作成している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回の職員会議の際、理念や基本方針を再確認し、理念に沿った支援ができるよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者の知人が尋ねてきたり、また、近くにホーム職員や理事長が住んでおり、地域との交流が行いやすい条件が整っている。また、夏祭り等、地域の行事にも積極的に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は外部評価の意義を理解し、外部評価の30項目を頭に入れて業務を行っている。自己評価の作成にあたっては、管理者が自己評価についてヒアリングをし、その結果をふまえて作成している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーには、自治会長や衛生委員(元教員)等、地域の方が入っており、会議で話し合われたことは、ホームの運営に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設長が市の元職員のため、市役所との結びつきが強く、日頃から市との連絡調整を行っている。市との調整の結果、民生委員の研修場所になったり、小学生の社会科教育の場所にもなっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎日面会に来られる家族もあり、利用者の日頃の生活の様子を伝えている。面会に来られない家族の場合は請求書と一緒に利用者の写真(コンサートの際の集合写真等)や便りを送っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族がホームへの意見や不満を表出するために、投書箱を設置している。また、家族が意見や不満を言いやすい雰囲気づくりを心がけ、家族から出た意見等はホームの運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員のシフトは職員の希望や体調を踏まえて作成しているということもあり、現在職員の異動及び退職はない。職員が異動する際には、利用者のダメージを防ぐため、異動理由を丁寧に説明している。また、新しい職員を利用者に紹介し、新しい職員に早く馴染めるよう工夫している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や能力に応じて保健所や埼玉県社会福祉協議会主催の研修会に参加している。研修に参加した職員は、研修に参加していない職員に伝達研修を行っており、職員間で研修内容を共有化している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	埼玉県グループホーム協議会の研修会に参加し、サービスの向上に努めている。また、介護支援専門員協会ともネットワーク作りを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家族の介助でないと入浴できない方がいたが、ホーム職員による介助やホームの雰囲気馴染めるため、入居後半年程度は家族に介助してもらい、ホームでの入浴につなげている。入居前に事前に見学してもらったり、体験宿泊してもらい、ホームの雰囲気に馴染らせている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>誕生日会や夕食会、その他のレクリエーションを、利用者の話を傾聴し、ニーズを把握しながら一緒に楽しく行っている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の生活の中で、利用者の一人ひとりの思いや希望に関心を持ちながら、利用者と接し、把握に努めている。また、利用者の思いや意向をより把握しやすいよう、傾聴ボランティアに来所してもらっている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族から出た意見について職員間で話し合い、本人や家族の希望、それらについての職員の意見を踏まえた介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>短期目標3ヶ月、長期目標6ヶ月として介護計画の見直しを行っている。また、ターミナル期になると、「ターミナルケア対応指針」に基づき、家族の要望を伺いながら介護計画の見直しを行い、それに基づいた対応をしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームへの面会時間は決められておらず、家族は自由に利用者と会うことができる。また、家族が病院へ付き添えない場合は、他事業者の福祉タクシーと連絡調整し、受診につなげている。墓参りなどの外出も、利用者の希望によって柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関の医師が週1回往診してくれる。歯科には通院介助を行っている。利用者や家族の希望に応じ、提携医療機関以外の受診も可能である。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	かかりつけ医や訪問看護師等と連携をとって対応できるようにしている。現在、1年間程度ターミナルケアを実施している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への声かけ等において、プライバシーを損ねるような対応をしないように常に心がけている。利用者一人ひとりの個人情報については、施錠できる本棚に保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての日課を特に定めず、一人ひとりのペースや希望に合わせた暮らしを実現している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態に応じ、下膳等の準備をしてもらっている。また、利用者と職員と一緒に楽しく食事をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	柚子湯・菖蒲湯等を行う等して、入浴がより楽しくなるよう工夫し支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	下膳・洗濯物たたみ・布きり等利用者自身ができる事をやってもらっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員の付き添いのもと、毎朝散歩し、また、庭には自由に出入りすることができる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けず、庭には自由に出入りできる。夜間は鍵を掛けている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画及びマニュアルがあり、消防署や地域住民の協力のもと年2回訓練をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士作成の献立に基づきバランスの良い食事を提供し、栄養と水分摂取量も把握されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりの良い共用空間の中で、テレビを見たり、それぞれくつろぎ、ゆったりとした時間を過ごされていた。また、季節感のある柚子の木等、いろいろなものを飾っている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には仏壇・箆笥等利用者にとって馴染みのものを持ち込むことができ、利用者一人ひとりにとって居心地よく過ごせるような配慮をしている。		